

第2回 新宮市文化複合施設管理運営検討委員会 会議概要

日時：平成28年2月24日（水） 午後1時30分～午後4時00分

場所：新宮市人権教育センター

【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、丹羽委員、勢古委員、
雑賀委員、竹中委員、城庵委員

【欠席委員】

那須委員

【事務局】

田岡市長、楠本教育長、片山教育部長

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、小林主事、篠原主事

図書館：道前係長

【支援業者】

シアターワークショップ：伊東氏、奥田氏

<開会>

<報告1. 市長報告>

【市長】

文化複合施設の見直しについての経過と、今後の施設整備に関する考えを説明。

- ・基本設計等検討委員会に本体工事費48億円で検討をお願いし、1月14日に提言をいただいた。
- ・提言に基づき事務局と設計者で協議を重ね、基本設計として完成させつつあったが、解体等本体工事費以外の費用が予定の7億円より4.8億円増加した11.8億円と1月下旬に報告を受けた。
- ・事業費が59.8億円、さらに必要になった発掘調査を加えると総事業費が61.6億円。
- ・これまで議会等において、総事業費を55億円と説明してきたことと、ランニングコストの財政負担を考え、55億円に近づけるよう本体工事費も含めて見直しが必要と決断した。
- ・2月17日の教育民生委員会で本体工事費自体を見直す説明。熊野学棟を見送る方針を出した。ただし、熊野学棟にある中上健次資料コーナーなどについては、図書館棟、ホール棟を見直し、確保したいと考えている。
- ・熊野学棟については、あくまで見送りであり、今後の課題にしたい。
- ・基本設計等検討委員会で長期間にわたり議論いただいたことに申し訳なく思っている。
- ・施設整備の大きな変更を決断したが、管理運営計画の基本方針の部分についての検討は予定通り進めていただくことは可能と考えている。

【委員】 計画についての質疑

- ・本体工事は48億円であったことは当初のプロポーザルでも明記されていたことである。備品なども本体工事に含まれていたのか。
- ・予算がふくらんだ要因は何か。
- ・今回増額要素といわれていた付属工事等の費用の算出根拠が不明である。そこが大きくなったからといって、本体工事の金額にまで手を付ける根拠が説明されていない。
- ・委員会では本体工事48億円前提で議論を進めてきており、それは市も認識していたはず。その段階では付属工事等の概算金額を把握できていなかったということか。
- ・現時点での見直しは現実的ではないのでは。
- ・熊野学センターの見送りであって、計画自体を中止するわけではないと再度確認させていただきたい。
- ・現時点での建設費における市の負担額はいくらか。

【市長】【事務局】

- ・備品については、工事に付随するものは本体工事に入るが、その他は備品である。費用は概算で2.8億とみている。
- ・付属工事等の概算内訳については、設計監理費2.7億、外構工事3億、備品2.8億、解体3.3億で、総額11.8億である。大幅な減額は厳しいと考えている。
- ・熊野学センターの建設は、現時点では厳しい。将来財政が改善されれば、再度計画を提示することは可能と考えている。
- ・事業費の半分は国交省の交付金でまかない、その他の内7割は合併特例債などを充当する予定である。市の実質負担はそこからの残りの数字となる。
- ・総事業費55億円の中で建設するため、本体工事の削減はやむを得ない。

【委員】ランニングコストについての質疑

- ・減額によるランニングコストの軽減を見込んでいるようだが、コストはどの程度削減されるのか。
- ・現時点でのランニングコストと、熊野学センターを削ったことによる変更後の差をお聞かせいただきたい。

【市長】

- ・ランニングコストの軽減については年間1000万円～2000万円程度の削減を見込んでいる。

【委員長】

- ・基本設計等検討委員会は、プロポーザル時点の要項を前提に検討を行っていたはず。その経緯を市は再度確認・認識してほしい。
- ・本体工事以外の付属工事や経費の見方が甘かったのではないか。
- ・本体工事まで削減の流れとなっていることで、委員の皆様には実際にこの施設が建つのか。という不安が生まれている。

【委員】

- ・一般的に、付属工事は本体工事の20～30パーセントと認識している。7億円という数字は試算として甘かったのではないか。
- ・市の財政上、金額の問題となるとやむを得ない部分もあるが、縮小に関する不満は大きい。
- ・総事業費が60億円に近くなるということは議会も認識していたのではないか。そうしたこと

も含めて市長が承認したものと思っていたが、覆されたようで困惑している。

- ・熊野学センターを見送れば、今後その資金はどこから出てくるのか。
- ・本体工事の縮小は考えられない。
- ・現市民会館は3月で閉館する。今から検討し直すより、この文化複合施設を待望している市民のために、スケジュール通りに建設することを考えていただきたい。
- ・腹立たしい気持ちでいっぱいである。もともと本施設は熊野学センターを要として、そこからスタートした話と認識している。熊野学センターがなくなることは考えられない。
- ・熊野の歴史はお金で買えないものと認識している。市はもっと真剣にやってほしい。
- ・熊野学センターの見送りについて、新宮市の姿勢が見えない。本施設は熊野学なしではありえない。この施設は、熊野の歴史を発信していくまちづくりの拠点とするのではなかったのか。図書館等だけでは機能は充足しない。
- ・施設計画が変更になるということは、コンセプトがなくなるということ。現状のまま管理運営検討委員会を続けていくことは厳しい。
- ・説明の中でも、明確なランニングコストの試算はされていない。
- ・我々市民の意見がないがしろにされているのではないかと感じる。
- ・図書館やホールに熊野学棟の機能を持つてくることは不可能であると認識している。市長の熊野学に対するお考えをお聞きしたい。
- ・市民が最終的に負担する費用が明快になっていない。数字の一人歩きだけが出てしまっている。それをしっかりと説明していただきたい。
- ・これまで新宮市の文化の拠点として夢のある話をしてきた。今はお金の話が先行しているが、文化に対する思いを実現して欲しい。

【委員長】

- ・本委員会は、市民の意見を提言書にまとめる場である。
- ・本体工事以外の付属工事費の試算が甘かった印象はある。
- ・本体工事48億円を守る条件で「3つの機能で3棟案」を、基本設計等検討委員会の提言としてまとめた。
- ・市長が見直しを表明されたが、市民が長い間待望した文化ホールである。
- ・本検討委員会としては、今回ご説明いただいた変更内容に関しては、これまでの経緯を踏まえると到底認められるものではない。提言どおり、3年後に文化ホールができるよう、内容の順守をお願いしたい。

【市長】

- ・本日いただいた内容を重く受け止めている。
- ・熊野学センターの建設は将来の課題として継続していく。
- ・建設は予定通り、平成31年3月の竣工を目標に進める。

【委員】

- ・3棟から2棟になることで、設計事務所とのやり取りはできるのか。
- ・熊野学センターの建設がなくなる場合、一部図書館に持っていく機能の想定はあるのか。

【市長】

- ・現段階の基本設計は一度受け取り、その後、設計者と変更の協議を行う。

- ・機能の変更に対する協議もこれから行っていく。

<報告 2. 前回の確認事項>

事務局より資料 1 を説明。

<報告 3. 支援業者の紹介>

支援業者より自己紹介と参考資料 1 の説明。

<議事 1～3. 管理運営計画、スケジュール、方針について>

支援業者より資料 2～4 を説明。

【伊東氏】スケジュールについて

- ・本計画は平成 31 年 3 月に竣工。ここをマイルストーンとして逆算すると、管理運営計画の策定する時間は非常に短い。直営の場合は舞台特殊設備管理の委託業者、指定管理者であれば運営を委託する業者と、来年度中に契約を済ませてしまう必要がある。そのためには、施設が固まっていないとしても管理運営検討委員会は進めていかなくてはならない。特に指定管理者を公募する場合には、管理運営費の試算も加わるので更に厳しい。
- ・昨今は直営での運用が見直されてきており、多様な契約形態によって専門人材の確保も比較的容易になってきている。
- ・以上のような状況を踏まえつつ、新宮市に適したあり方を考えていきたい。

【委員】

- ・新しい図書館というスタイルに惹かれる部分はある。
- ・昔ながらの図書館のあり方を是とする方々も多いので、新宮市のあり方をヒアリングしていただき、良い方向に決めていきたい。
- ・昔ながらの図書館スタイルを維持しつつも、昨今の新しい方向性もお話いただきたい。
- ・中高生を対象とした出前ワークショップなどもやっていただきたい。
- ・広報を強化してほしい。新宮市の人は、あまり市政に興味がない。
- ・ホール事業を通じて人を育ててほしい。ワークショップは総合学習の中でできるのではないかな。
- ・学校との関わりについては、教育委員会としてどのように仕掛けていくのか。方針があればお聞かせいただきたい。

【事務局】

- ・学校への出前ワークショップへの参加要請は可能である。
- ・市として現段階では、ホール完成後、市民のみなさんからの要望をお聞きして、自主事業を強化することなどを考えている。

【委員】

- ・運営を行っていくボランティア養成などは計画があるのか。

【事務局】

- ・あくまで「お願い」となるため、強制はできない。

【委員長】

- ・市民が使いこなす施設にしていくことが重要。そのためには専門家と協働しながら市民の技術力を高めていくことが必要である。
- ・新宮の歴史に合わせながらも、新しい施設をつくっていけるような提案のできる委員会としていきたい。
- ・施設の方で、自前で創作発表できる劇団・楽団などを持つことも考えられる。学生は放課後に施設に足を運び、練習する場所作りを行っていくことも可能。
- ・岸和田市の浪切ホールには、ここを拠点としている合唱団が存在する。

【委員】

- ・市の収支が厳しければ、そうした提案も今回のようにすべてひっくり返ってしまうのではないか。

【委員長】

- ・どちらが先かという議論はあるが、具体的な運営方針を決めていかなければ、具体的な収支金額は出てこない。先に数字が決まってしまう上で方針を立てるということは、施設運営にはじめから足かせをつけることになりかねない。

【伊東氏】

- ・公益社団法人全国公立文化施設協会の統計資料をもとに、ホールを持つ公立文化施設の維持管理費の概算を算出することは可能である。維持管理費に人件費、事業費も合わせると、他の類似事例では年間2億～2億5000万円程度の試算となる。本施設でもこうした数字が一つの参考となる。

【委員長】 今後の検討方針について

- ・本検討委員会としては、当初の計画通りホール、図書館、熊野学センターが存在する前提でまずは検討を進めたい。正式に変更となった場合は通知後の調整・議論とする。

【委員】

- ・市長のお話では、熊野学センターの見送りは決定事項のようだが、本検討委員会でもそれを前提に進めたほうが効率が良いのではないか。

【委員長】

- ・本日お話頂いた内容が正式に決定となった時点で検討スケジュールに修正を加えていく方針とする。

【委員】 その意見

- ・今回計画が変更となったが、市民ワークショップの開催のときに、説明時の理念説明はどうするのか。
- ・熊野学センターが見送りとなっても図書館の中に熊野学の要素は残さなければならない。

<議事5. その他>

次回は4月15日（金）午後1時30分から

<閉会>